

算数・数学部

1 研究主題

数学的な見方・考え方を働かせながら、主体的に学びに向かい、知識・技能を習得し、思考力・判断力・表現力等を高め、深い学びを実現する授業の創造

2 指導の重点

- ・授業づくりの際、どの場面で、どのような数学的な見方・考え方が働くかを明確にする。
- ・日常や社会の中での事象、数学の事象から問題を見いだす活動を大切にす。
- ・数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数・数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を育てる。
- ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解できるようにする。
- ・思考を整理するよう促し、根拠を基にして筋道立てて考え、表現する力を育てる。
- ・多面的なものの見方や論理的に考える場を設定し、数量や図形の性質などを見いだし統一的・発展的に考察する力を育てる。

3 研究組織と活動内容

(1) ホームページ（部報）委員会

- ①ホームページ（部報）の更新（発行）と情宣
- ②愛知県小中学校児童・生徒統計グラフコンクールの啓発
- ③「基礎学力調査 結果と考察」、指導案等の掲載

〈今年度の重点〉

- ・算数・数学部の情報共有（特に自主研修会）を図るために、ホームページ（部報）やメール配信の有効活用

(2) 授業改善（基礎学力）委員会

- ①基礎学力調査問題の検討
- ②基礎学力調査問題の解答、解説の作成
- ③基礎学力調査の実施
- ④報告書「基礎学力調査 結果と考察」のまとめ

〈今年度の重点〉

- ・基礎学力調査を生かす分析と考察、授業改善例の作成

(3) アイデア（研究集録）委員会

- ①アイデア集（第36集）の編集
- ②研究集録の編集・発刊

〈今年度の重点〉

- ・数学的な見方・考え方を培う教材、GIGAスクール構想によるICT機器の活用や個別最適化に向けた学習の手法、学力の定着を図る教材、楽しく学べる教材や授業での有効な手法など発刊に向けたアイデアの集約
- ・授業に直結する内容や年間の活動内容がよく分かり、使える研究集録の作成、デジタル化

(4) 研修（読書会）委員会

- ①算数・数学教育研究部会（読書会）の企画・運営
- ②授業研究会の運営

〈今年度の重点〉

- ・算数・数学教育研究部会（読書会）で、「わり算」「証明」をテーマに、代表教師による提案・発表
- ・授業研究会の実施
- ・Teamsによるオンライン配信の活用
- ・教育論文の書き方指導の改善
- ・優秀な研究的実践から学ぶ授業改善の具体

(5) その他

- ①東海地方数学教育会第72回研究（岐阜）大会、三河教育研究会算数数学部会夏季研修会（西尾大会）、全国算数・数学教育研究（石川）大会、市教育研究大会への参加
- ②算数・数学教育研究部の刊行物の利用促進

〈今年度の重点〉

- ・各種研修会での学習を通じた授業力向上の促進
- ・算数・数学教育研究部の刊行物（「新 算数指導の疑問 これですっきりIt's OK!」「中学校数学指導の疑問 これですっきり」「算数科の深い学びを实践する」「算数科の深い学びを实践するー21の授業づくりー」の利用促進

4 1年のあゆみ

- 4月10日（木）現職研修委員会総会（SGC）
- 4月28日（月）感謝の会並びに歓迎の会
（岡崎ニューグランドホテル）
- 4月30日（水）第1回主任会（SGC）
- 5月13日（火）第1回算数・数学教育研究部会（読書会）
SGC・映像配信
- 6月3日（火）第2回算数・数学教育研究部会（読書会）
SGC・映像配信

「数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し

粘り強く考えよりよく問題を解決する生徒の育成
～3年「図形と相似」の実践を通して～

竜海中学校 渡會大貴先生

○第3回 令和7年10月7日(火)

総合学習センター 午後6時00分～

県教発表者による提案

「主体的に数学的活動に取り組み、

数学的な見方・考え方を働かせる児童の育成
～1年 算数科「かたちづくり」の実践を通して～

大樹寺小 鈴木佑芽先生

「主体的・対話的な学びを通し、

より深く知識を活用する生徒の育成

～3年 図形と相似 ～ハンバーガーショップのポテ
トの箱～の実践を通して～

北中 国分貴寛先生

○第4回 令和7年12月2日(火)

総合学習センター 午後6時00分～

研究的実践より学ぶ

～5年 算数科「単量当たりの大きさ」の実践～

広幡小学校 中神郁海先生

○第5回 兼 学校数学研究会 令和7年1月20日(火)

総合学習センター 午後6時00分～

「次期学習指導要領を見据えた

探究的な学びとデータの活用」

講師 愛知教育大学准教授 青山和裕先生

○第6回 令和7年2月18日(火)

総合学習センター 午後6時00分～

研究的実践より学ぶ

中学校2年生「図形の性質と証明」授業実践

翔南中 本郷徹真先生

(5) 全国・愛知県統計グラフコンクール

愛知県統計グラフコンクールでは、多数の作品が入賞した。

- ・1～2年生の部：金賞1点、銀賞2点、銅賞3点
- ・3～4年生の部：金賞4点、銀賞4点、銅賞3点
- ・5～6年生の部：金賞1点、銀賞3点、銅賞4点
- ・中学生の部：金賞3点、銀賞3点、銅賞3点
- ・パソコン統計の部：金賞1点、銀賞2点、銅賞1点

全国コンクールでは、5点が入賞作品として選ばれた。受賞者は次の通りである。

<第1部(小学校1, 2年生の部)>

佳作 上地小学校 2年 高辻彩葉

<第2部(小学校3, 4年生の部)>

佳作 上地小学校 4年 川澄 梓

佳作 井田小学校 4年 成瀬絢音

<第3部(小学校5, 6年生の部)>

佳作 三島小学校 6年 江間桜子

<第4部(中学校の部)>

佳作 竜海中学校 1年 判治里紗

○令和7年度統計功労者表彰式

2月6日(金) 愛知芸術文化センター

統計グラフコンクール指導者表彰

個人の部 深田宏明先生(新香山中)

6 各委員会の成果と課題

(1) ホームページ(部報)委員会

- ・毎回、アイデア集の内容から、その時期に使えるような授業案を提案することができた。
- ・各種サイトへのQRコードを添付することで、情報へのアクセスを簡単にした。今後も先生方が必要な情報に簡単にアクセスできる環境を整えていきたい。
- ・内容や発行時期を精選し、読み手が興味をもち、活用できる部報になるように努める。特に中学校のアイデア集の紹介が少ないので、増やすことができるように検討したい。

(2) 授業改善(基礎学力)委員会

- ・小学校2年生以上は、各校で実施される学力調査と同じ解答形式となるように、解答用紙を作成し、調査を行った。
- ・中学校では、教科書改訂に伴い全ての学年で問題の再検討を行い、教科書の学習内容に合わせた基礎学力調査になるようにした。
- ・先生方の負担軽減を考慮し、小学校では3分の1、中学校では2分の1の学校を調査対象とし、小規模校については任意とした。
- ・まとめの冊子はデータで作成し、算数・数学部のホームページにて公開し、多くの先生が見たいときに簡単に見られるようにした。
- ・要点が伝わるように、「分析」と「授業提案」を合わせてA4版1枚に簡潔にまとめた。
- ・負担軽減のため調査対象を軽減したが、毎年調査校が変わる関係でデータの変容が正確に分析できていないという

実態も指摘されている。そのため来年度以降の基礎学力調査の取り組みに関して、現行調査の形を廃止することを含めた大幅な改善をする予定で検討を進めている。

(3) アイデア（研究集録）委員会

- ・年度初めにアイデア集編集委員の先生方に月ごとに担当の原稿を割り振らせていただいたことにより、原稿作成を念頭において計画的に実践を進めていただくことができた。
- ・実験等の活動やICTを取り入れた実践を集められた。
- ・授業実践の様子が分かる写真を掲載した原稿が多く、読み手に伝わりやすい原稿を多く集めることができた。
- ・2次原稿をひな形として作成をお願いしたため、先生方の負担軽減につなげることができた。
- ・算数・数学主任の先生の実践やアイデアに限らず、それぞれの学校で取り組まれた優れた実践を積極的に募集するために、算数・数学主任の先生以外の先生方にも1次原稿用紙を配付する。
- ・基礎学力調査をふまえて、基礎学力を高めたり、児童・生徒のつまずきを解消したりするアイデアを募集することができなかった。授業改善委員会と協力して、つまずき解消に向けたアイデア募集の方法を考えていく。
- ・GIGAスクール構想の実現に向けて、個別最適な学びができるアイデアやタブレット端末を効果的に活用するアイデアを今後も積極的に収集していく。
- ・多くの先生方が手間をかけずに、アイデア集を使えるように、ワークシートやコピーできる教材を積極的に取り入れる。また、授業支援アプリ「スクールタクト」の教材について、校内だけではなく、市内で共有できるように呼びかけていく。
- ・今後も、過去に発刊されたアイデア集を含めて、優れたアイデアをデータ化し、日々の実践や研究授業の教材等として活用できるように、ホームページや部報などを使って情宣していく。

(4) 研修（読書会）委員会

- ・柴田録治先生（愛知教育大学名誉教授）、高須亮平先生（元愛知教育大学教授）を講師に迎え、研修を進めた。
- ・教師の指導の難しさや、学習における子供の悩みが多い「わり算」「証明」をテーマとし、具体的な指導法を学べた。
- ・授業研究会では「小数のわり算」をテーマに、甲山中学校の神谷尚希先生の授業を参観した。授業後のアンケートでは、「既習の包含除に返るという手だての有効性を感じた」

「子供の姿から、具体物の活用の工夫のよさを感じた」という意見が多かった。

- ・算数・数学部の強みである縦と横のつながりを育むために対面での研修を重視し、多くの先生が協議に参加し、意見が交流できる場を設けられるように工夫したい。